



大倉山つつみ通り地区 地域緑化計画書

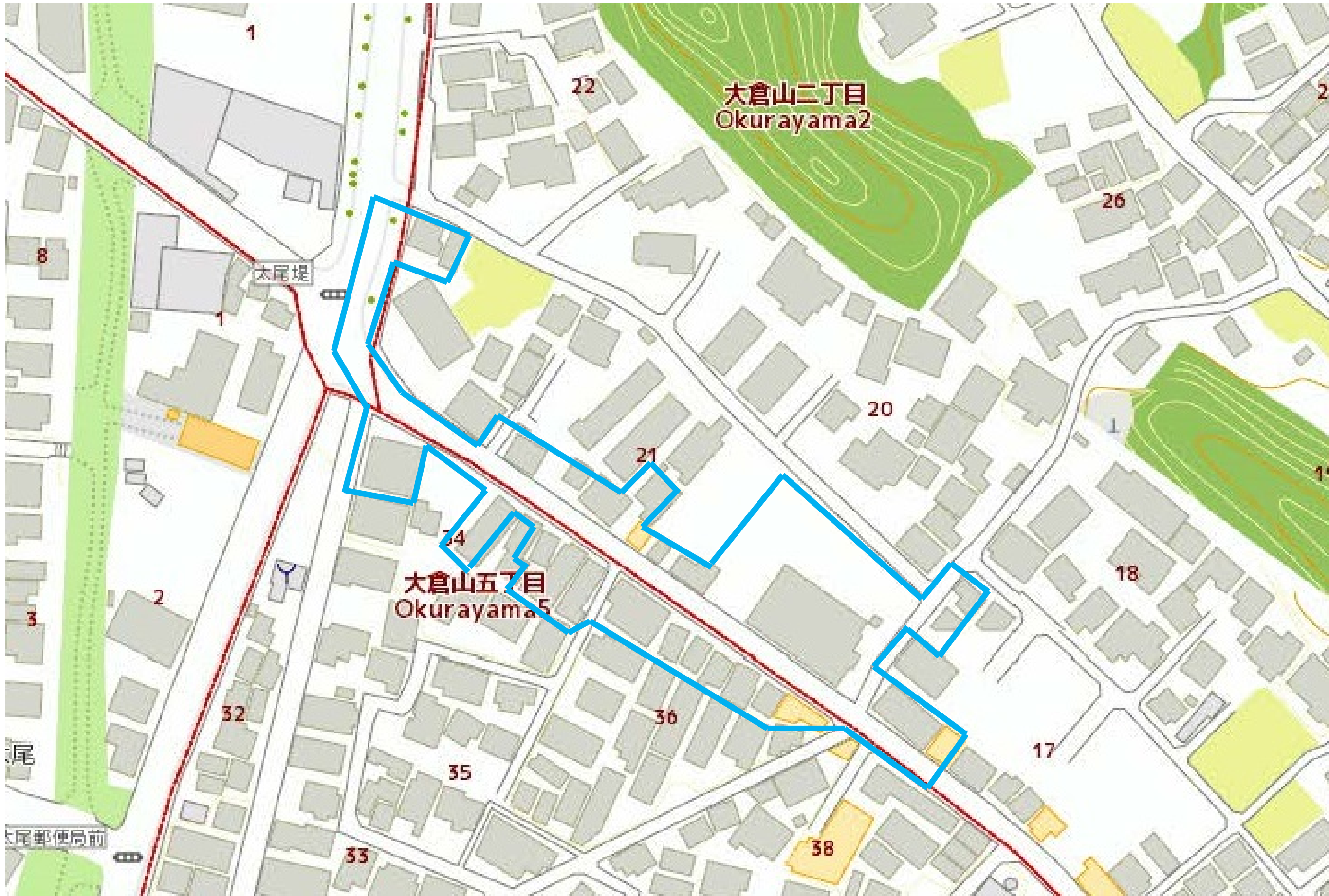
計画名：大倉山地域の緑を育み、人々の交流を広げるまちづくりを次世代へ

推進団体名：GREEN TOWN OHKURAYAMA



この地域緑化計画書は、公開します。

地区の範囲



計画期間	平成28年度 ～ 平成30年度
計画概要	かつて賑わいを見せたつつみ通り商店街に緑を増やすことで、減少してしまった地域住民のコミュニケーションの場を広げる。緑化が縁となり地域交流が深まり、地域を愛する心を育むきっかけとなる。直接会話でどのように緑を増やすことを理想とするか積極的にコミュニケーションを重ね、地域住民の生の声が緑化という目に見えるかたちで具現化し、まちづくり参加の実感とともにまちへの愛着が増し、緑が増えた実感と緑の恩恵が地域に広がる。 つつみ通り商店街の沿道に緑を中心とした草花を地植え・プランター植えなどで植栽し、緑と花の「グリーンロード」として GREEN TOWN OHKURAYAMA のイメージを定着化させる。また、狭いバス通りに車が行き交い、整備された歩道がない沿道に位置する「グリーンロード」の中間点に交通の安全性を考慮したポケットパークを設け、通行人が自然に足を止めながらも緑を感じ、情報を受け取れる場を創設する。ポケットパークが入り口となる「グリーンフィールド」を整備し、緑を感じるイベントや緑化の学びのワークショップを開催することで、近隣住民から大倉山地域を愛する人々まで、緑化を気軽にライフスタイルに取り入れる提案を展開していく。 つつみ通り商店街から大倉山地域全体へ「グリーンロード」をつなげることを目標に、「グリーンライフの発信の場—GREEN TOWN OHKURAYAMA」を目指す計画である。
立地環境	対象範囲となる通り「グリーンロード」は鶴見川から大倉山駅へつながるバス通りの太尾堤交差点から約240メートルの区域。25年ほど前までつつみ通り商店街には商店が数多く並んでいたが、現在は商店の数は減り、住宅が増えている。宅地化がすすみ近隣の田畑が、一戸建て・マンション・アパートなど様々なスタイルの住宅に年々変わっている。地域住民は、单身者も多いが、古くからの住民や子育て世代の新規住民も多い。また、駅へつながるメイン通りであり、通勤通学などで毎日通行している人も多い。 計画対象区域は、大倉山梅園や太尾堤緑道と比較し緑が少なく、バス通りにしては道幅が狭い通りである。 また、計画対象区域の通りには市営バスが行き交い、電柱も多く、高齢者やベビーカーでの歩行の安全性が低い。道幅、住宅の立地により、緑化空間を工夫しなければならない課題がある。 このような課題をふまえ、地植えできるスペースに限りがあることから沿道の民有地にプランターやハンギングバスケットなどを中心に設置することによって「グリーンロード」の緑化を目指す。一方、地域緑化活動の拠点となる「グリーンフィールド」は、まとまった地植えが可能な希少な土地であり、育苗やワークショップ、イベントなどの展開が可能な場である。
計画の効果	大倉山駅へつながるこの「グリーンロード」の緑を目にした通行者が草花の四季を感じられることにより、憩いと豊かな心が育まれる。一重咲き八重咲きまた様々な色の花・様々な斑入り葉、香り樹木を植栽することで、視覚・触覚・嗅覚から植物への親しみを感じ、また虫や鳥たちが集まることにより聴覚で緑を感じ、栽培した香草や花・果実などの味覚を楽しみ、緑を身近に感じる心が育まれる。通行量の多い立地を活かし毎日の通勤通学で草花の四季の移り変りを楽しむ憩いの時間を瞬時に感じられ、大倉山で暮らし・働き・学ぶ人々のグリーンライフに味わいと広がりが生きる。 また、狭いバス通りに車が行き交い、整備された歩道がない沿道にポケットパークを設置することにより、歩行者の安全性に配慮した、誰もが気軽に立ち寄れる緑化スペースを地域に提供することができる。この民有地を活用したポケットパークが第一事例となり、地域の他の場所にもポケットパークが増える可能性をもたらす。 「グリーンフィールド」は、緑化のための学びのワークショップの場となり、イベント開催の場としても市民に随時、公開する。参加者が主体となって緑化に取り組めるきっかけを提供することにより、緑化が縁となり地域交流が深まり、地域を愛し、多世代住民が共に創造する心を育む場となり、グリーンライフが実現するようになる。 町内会同士の真ん中に位置する「グリーンロード」に緑化活動が広がることで、嘗ての商店街の繋がりを引き継ぐまちづくりのベースとなる。

計画期間中の 仲間づくり・資金	直接会話で地域住民の生の声を聞くことからコミュニケーションを広げ、不在時の水やりも助け合える協力関係を築く。また、半日陰・日陰立地などの生活環境やそれぞれの趣向に合った緑化を専門家の知識と共に提案することで取り組み易くする。 グリーンフィールドで雨水利用や生ゴミでの肥料づくりワークショップを行い、低コスト緑化の提案を行う。ワークショップ開催の内容を継続性のある内容にし、植物の成長、季節の移り変りと共に参加者の学びもステップアップできるよう、工夫した内容にする。新規の参加者も参加し易いよう、参加できなかった回の内容もレジメとしてわかりやすくまとめ配布できるようにする。資金は、民有地緑化についてはグリーンロードの店舗や民家がそれぞれ一割負担する。その他自己負担金は、その一部について協力 NPO 等の協賛を受ける。 ポケットパークを設け、市民活動の掲示板スペースを作り、通りを行き交う人々の目にとまるよう季節の草花紹介と共に、グリーンライフ情報発信の場とする。ニュースレターを作成し町内会回覧板での紹介や大倉山地域の店舗にご協力をいただき配布をする。会のウェブサイトの作成も順次行っていくなどの工夫もしていく。また、港北オープンガーデンに参加するなど、地域交流の場に積極的に参加する。
計画期間終了後の 仲間づくり・資金	会のメンバーやワークショップ参加者が自ら主体となって緑の維持管理を継続的に行えるよう、計画期間中のワークショップを活用し、専門家講師からの学びを深め、植栽の管理、球根植え替え時期の一括注文、堆肥作りや雨水利用などの実務にあたれるよう努める。計画期間終了後のワークショップ開催費用は、会メンバー含め参加者から受講料をいただく。 イベントなどで、オリジナルデザインしたオーガニックコットンの T シャツやエコバックを販売し、収益を計画期間終了後の種購入などの運営費にあてる。初年度から協賛金を募り、計画期間終了後の大倉山地域グリーンロード実現への準備を始める。収益金や協賛金の一部を球根等購入費用にあてグリーンロードに植栽する。また、種からの栽培を近隣の子どもたちに体験していただき、植物の成長の学びの場とする。グリーンフィールドでの学びが緑化への意識・技術のアップへつながり、専門家に頼らずとも低コストで高クオリティの緑の栽培が実現する。 さらに、大倉山地域のみならず、全国各地で緑化の取り組みを行っている方々とつながれるよう、ウェブでの情報発信を継続的に行う。SNS 等を活用し仲間集めを始めイベントごとのクラウドファンディングを募る。実に多くの方々、コミュニティやボランティアの方々が国内で様々なスタイルで実践している緑化への取り組みをまずは知ること、そして大倉山ではどのようなことができるか、大倉山地域での可能性が広がる情報発信をつづけていきたい。ウェブサイト作成は計画期間初期に行い、更新管理も会メンバーが継続的に行えるよう、計画期間内に学び努める。
創意工夫	ポケットパーク（点）、グリーンロード（線）、グリーンフィールド（場）の 3 つの窓口から地域の緑化をすすめることにより、積極的に緑化に関わる意志のある住民のみならず、通行人にもその効果を感じてもらえる工夫をしている。グリーンロードとグリーンフィールドを繋ぐポケットパークに立ち入り易いよう、季節毎の草花の変化を感じる寄植えをプランターやハンギングバスケットを用いて設置し、誰もが気軽に緑に親しむ空間を提供する。また、緑化に関する絵本や書籍を集めた「緑のライブラリー」を設置し、様々な趣向に合った緑化が可能なことを紹介していく。次世代の緑を育む心を育む絵本『だいじなドングリ』（昭和 60 年横浜市緑政局（現・環境創造局）作成・発行）も紹介する。 民有地でありながら、公共性のあるグリーンフィールドを活かし、緑をもっと身近に感じるイベント「EARTH GREEN DAY」（仮称）を年 1 回開催し、ブース出展やレクチャーなどで全国各地の緑化の取り組みを紹介する。 大倉山レモンロード、エルム通り、オリーブ通り、つつみ通りとつづくバス通りに位置するグリーンロード内に、ギリシャ建築風の町並みにちなみゲッケイジュとオリーブの木を植樹する。また、プランターや花壇には常緑の宿根草を植栽し一年を通して緑を維持し、大倉山地域内の公園でも流行をみせているミックス球根（開花期・色・形を混ぜる）を植栽し、愛らしさを増す工夫をする。

計画年次	計 画 内 容
1 年度目 (平成 28 年度)	〈民有地緑化〉 グリーンロード：プランター・コンテナ・ハンギングバスケット等植栽・設置 既存花壇植栽、地植え樹木設計 公共生垣(1 箇所)土壌改良・植栽、緑化整備 ポケットパーク：植栽機能付き掲示板・「緑のライブラリー」設計 〈地域緑化活動〉 グリーンロード：清掃活動 グリーンフィールド：育苗準備、緑化活動ワークショップ開催（年度内 1 回） 「地域緑のまちづくり」事業現行協定締結地区への現場視察 ウェブサイト作成
2 年度目 (平成 29 年度)	〈民有地緑化〉 グリーンロード：プランター・コンテナ・ハンギングバスケット等植栽・設置 雨水タンク①設置 既存花壇植栽、地植え樹木植樹、緑化整備 ポケットパーク：植栽機能付き掲示板・「緑のライブラリー」設置、緑化整備 グリーンフィールド：雨水タンク②設置 〈地域緑化活動〉 グリーンロード：前年度植栽箇所の植え替え、清掃活動 グリーンフィールド：育苗、緑化活動ワークショップ開催（年 4 回） 雨水利用のワークショップ開催（1 回） 緑化イベント「EARTH GREEN DAY」（仮称）開催（年 1 回） ウェブサイト運営、見学会開催（1 回）
3 年度目 (平成 30 年度)	〈民有地緑化〉 グリーンロード：プランター・コンテナ・ハンギングバスケット等植栽・設置 〈地域緑化活動〉 グリーンロード：前年度植栽箇所の植え替え、清掃活動 ポケットパーク：掲示板・「緑のライブラリー」維持更新、緑化整備 グリーンフィールド：育苗、緑化活動ワークショップ開催（年 4 回） 生ゴミ肥料づくりワークショップ開催（1 回） 緑化イベント「EARTH GREEN DAY」（仮称）開催（年 1 回） ウェブサイト運営、見学会開催（1 回）、港北オープンガーデン参加
計画期間 終了後	大倉山つつみ通りがグリーンロードとして緑あふれ、人々の笑顔あふれ、大倉山地域全体へと広がり、緑の縁で人々の交流も育まれ、継続していくよう、港北区で取り組まれているオープンガーデン参加希望者への学びの場づくりの支援をつづける。 持続可能な緑の育成となるようグリーンフィールドが地域の育苗スペースとしても活用される。 人々が共創造する喜びを感じ、新たなプロジェクトを展開するきっかけになるよう、緑化の広がりの様子がわかるよう、マップを作成・更新しウェブサイトで伝えていく。 大倉山地域内の活動とのコラボレーションイベントや緑化に関する映画上映会など、緑をもっと身近に感じるイベント「EARTH GREEN DAY」（仮称）の展開型のイベントを大倉山地域でつづける。

緑化計画図

グリーン タウン オオクラヤマ GREEN TOWN OHKURAYAMA

大倉山地域の緑を育み、人々の交流を広げるまちづくりを次世代へ

グリーンフィールド

- 緑化の学びのワークショップ開催
- EARTH GREEN DAY（仮称）イベント開催



子ども連れでも参加しやすいワークショップ



交差点から見通しの良い公共の生垣に植栽



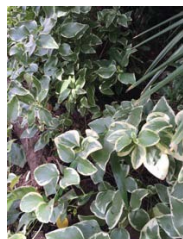
果をつくるハト



緑のカーテン



太尾堤緑道の桜並木



様々な斑入り葉



八重のドクダミ

緑化のインフォメーションスポットを創設

ポケットパーク

- 掲示板を設置し、緑化のワークショップやイベントのご案内をはじめ、市民活動などの情報も発信
- 季節の草花をご紹介します
- 緑のライブラリー



ポケットパーク



緑のライブラリーでは、

緑ゆたかなまちづくりを市民の皆さんといっしょにめざしていこうと、昭和 60 年に当時の横浜市緑政局（現在の環境創造局）が作成・発行した絵本「だいにドンダリ」もご紹介



大倉山記念館



大倉山梅園

歴史ある大倉山公園周辺の文化と自然
グリーンロードへつづく散策ルート



秋植え・春植えのミックス球根

グリーンロード

大倉山駅から徒歩 12 分♪ 約 240m の緑の道！

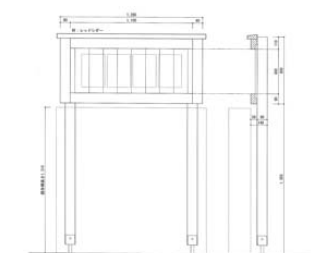
レモンロード・エルム通り・オリーブ通りにつながる“つつみ通り”沿いに
季節の草花・キンモクセイやローリエ、オリーブなど緑豊かな樹木が並びます



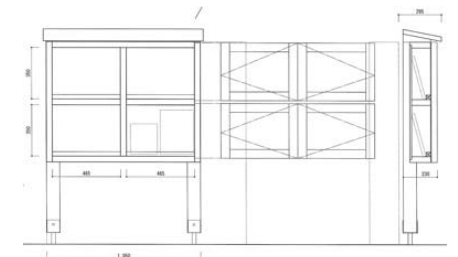
花壇に季節の草花を植栽



長持ちする植栽のハンギングバスケット



- 掲示板イメージ図
- *下部に草花の植栽スペースを設ける
- 緑のライブラリーイメージ図



大倉山地域みなさんと協力し、持続的にゆたかな緑を育み、住み易く、訪れて心地よいまちづくりに協力の輪を広げながら取り組みます

概算事業費（単位：千円）（注1, 5）

助成項目	細目	1年度目（平成28年度）	2年度目（平成29年度）	3年度目（平成30年度）	項目ごとの合計	※【参考】 助成率・助成金額の上限	
1 民有地緑化	①設計等経費	486	715	250	1,451	100%以内	
		（主な内容）グリーンロード、ポケットパーク、公共生垣の設計。 ポケットパーク内の掲示板・緑のライブラリーの設計含む。	（主な内容）グリーンロード、ポケットパークの設計。 ポケットパーク内の掲示板・緑のライブラリーの設計含む。	（主な内容）グリーンロードの設計。			
	②緑化整備等経費 （注2）	2,108	3,102	1,085	6,295	90%以内	
		（主な内容）グリーンロード:プランター・ハンギングバスケット等植栽設置、既存花壇植栽、／公共生垣:土壌改良・地被植栽。	（主な内容）グリーンロード:プランター・ハンギングバスケット等植栽設置、既存花壇植栽、樹木植樹、雨水タンク設置／ポケットパーク:掲示板・緑のライブラリー設置	（主な内容）グリーンロード:プランター・ハンギングバスケット植栽設置、既存花壇植栽、樹木植樹	0		
2 景観木保全	①調査費	0	0	0	0	100%以内	
	②診断書作成費	0	0	0	0	100%以内 （上限20千円/本）	
	③治療費	0	0	0	0	③と④は各景観木1本につき、 合計50千円以内	100%以内 （上限50千円/本）
	④環境整備費	0	0	0	0		100%以内 （上限50千円/本）
3 地域緑化活動 （注3）	①維持・管理費	660	300	300	1,260	①～④の合計 1,000千円以内 ／年度	100%以内
	②広報・研修費	230	580	580	1,390		100%以内
	③事務費	100	100	100	300		100%以内 （上限100千円/年度）
	④諸雑費	10	20	20	50		100%以内 （上限40千円/年度）
年度ごとの合計 （注4, 6, 7, 8）		¥ 3,594	¥ 4,817	¥ 2,335	10,746	1～3の合計5,000千円以内／年度	

（記入時の注意事項）

- 注1：提案計画の助成金と自己負担金を含めた概算事業費（予定金額）を記入してください。計画がない項目や細目は、0（ゼロ）を記入してください。
- 注2：民有地緑化の緑化整備等経費には、最低10%の自己負担金が必要となります。（助成金申請時に、自己負担金を用意できることが助成金交付の要件となります。）
- 注3：地域緑化活動の助成項目では、1年度につき1,000千円が助成金額の上限となります。
- 注4：民有地緑化、景観木保全、地域緑化活動の助成金の合計は1年度につき5,000千円が助成金額の上限となります。（3年度総合計の助成金額の上限は、15,000千円です。）
- 注5：千円単位で記入してください。（なお助成金額は、千円未満切り捨てとなり、端数は自己負担金となります。）
- 注6：本概算事業費の年度ごとの合計金額を上回る助成金の申請はできません。
- 注7：年度ごとの概算事業費を作成することとし、年度間での助成金のやりとりはできません。（年度ごとに助成事業を完了させる必要があります。）
- 注8：上限内での年度ごとの項目間、細目間での事業計画の見直しは、可能です。（28年度の地域緑化活動における維持管理費を増やし、その分の広報研修費を減らすなど）